

共同研究会記録

雑誌名	文学における近代 転換期の諸相
巻	22
ページ	189-192
発行年	2001-03-30
その他のタイトル	Kyodo kenkyukai kiroku
URL	http://doi.org/10.15055/00005402

共同研究会記録

【一九九六年度】

○第一回 五月十日

研究会主旨説明

百合若大臣の近代

井波 律子

井上 章一

○第二回 九月十三日

俳句の近代

艷本の世界・近代のゆくえ

光田 和伸

早川 聞多

九月十四日

露伴初期

井波 律子

○第三回 十一月一日

新婚旅行と「文学」

記者・戯曲者——桃水

白幡洋三郎

上垣外憲一

十一月二日

近代における自伝と個人主義の思想・序説

原 章二

○第四回 十二月六日

日本文学における菩薩本生譚・「捨身」をめぐる

君野 隆久

緑雨・蛇ノ目傘

杉本秀太郎

十二月七日

中国・清朝における吾妻鏡の流布とその影響

○第五回

三月七日

フランス近代詩移入の諸問題

三月八日

芥川龍之介の抒情詩

王 宝平

宇佐美 斉

池内 紀

【一九九七年度】

○第六回

五月二十三日

比喩の運命 ユーリイ・オレーシャの挫折とソ連文学の「転換」

日本の近代小説はいつはじまったかについての一二の説、
ならびに日本には「文学」概念がふたつあるということ

沼野 充義

鈴木 貞美

○第七回

七月二十五日

「美術」の成立と日本近代

信用（クレジット）と十九世紀文学

七月二十六日

川端康成の近代／反近代

○第八回

九月十二日

語り物の近代

日本と韓国・それぞれの近代詩

兵藤 裕己

芳賀 徹

鶴田 欣也

鹿島 茂

稲賀 繁美

九月十三日

日本における東洋史学の成立

○第九回

十一月十四日

茶の湯の近代をめぐって

日記の近代

近代文学総論および今後の研究課題

○第十回

三月十三日

沖縄宮古島の音楽における近代

能と近代・新作能を中心として

三月十四日

浦島太郎の近代

礪波 護

小谷 晴勇

西川 祐子

井波 律子

津田 順子

ヨコタ・村上・ジュリー

西 成彦

【一九九八年度】

○第十一回 五月十五日

日本モダニズムと小林秀雄

ウィリアム・ブローマーの日本滞在（一九二六～一九二九）

一九九八年度の方針について

○第十二回 七月二十四日

恋愛小説から『五重塔』へ

小松清とフランス、インドシナのかかわり

鈴木 貞美

ヴァイン・シン

吉田 和久

松居 竜五

全 員

七月二十五日

近代の恋愛観をめぐって・新しい女を中心に

○第十三回 九月二十五日

現代アメリカ小説について

「青春の研究」序説

九月二十六日

近代と犯罪・血ぬられた時代

○第十四回 十一月二十日

つくられた近松神話

フランスのユダヤ思想と近代日本

打ち合わせ

○第十五回 二月十二日

日韓の文学にあらわされた「老い」

中国近代翻訳事情・「探偵小説」を中心に

成果報告についての打ち合わせ

佐伯 順子

柴田 元幸

三浦 雅士

スミエ・ジョーンズ

小谷野 敦

大嶋 仁

全 員

金 春美

井波 律子

全 員